

朗読指導者 養成講座

2023年
4月開講

～朗読を深める～

Rodoku

講師陣 (講義日程順 敬称略)



加賀美幸子



山崎 広子



野田 尚史



勝田 夏子



木ノ下 裕一



吉田 玉助

作品を理解し、聞き手の心に届く朗読を深めることを目的としています。
朗読者だけでなく、日々コミュニケーションを必要とされる職業の方、
また、日常生活における円滑な人間関係を目指す方にも役立ちます。
ご一緒に、朗読力アップを目指して勉強しませんか。



NPO日本朗読文化協会

講師プロフィール



加賀美 幸子

1940年生まれ。1963年NHK入局。在局中は、報道、教育、教養、音楽芸能番組等々幅広く担当し、女性初の理事待遇となる。現在も、ライフワークである古典の原文朗読を中心に、講演、執筆など様々な活動を展開。NHK会長賞、ダイヤモンドレディー賞、前島（密）賞、徳川夢声市民賞など受賞。「NPO日本朗読文化協会」名誉会長、「千葉市男女共同参画センター」名誉館長、「放送人の会」理事、「NHK文化センター」講師、他。



山崎 広子

国立音楽大学卒業後、音声生理学と心理学を学び、音響心理学、知覚認知心理学をベースに音声と脳の関係を研究。3万例以上の声の分析を経て、脳の発声回路から発声障害を改善する方法論を確立。歌手・政治家・ビジネスパーソンの声のコンサルティング、またヴォイストレーナーの育成も行う。著書は「8割の人は自分の声が嫌い」（角川新書）、「声のサイエンス」（NHK出版新書）他。ラジオや講演で声の素晴らしさを伝え続けている。一般社団法人「声・脳・教育研究所」代表。



野田 尚史

現職：日本大学文理学部教授
生まれ：1956年、石川県金沢市
学歴：大阪外国語大学イスパニア語学科卒業、同大学大学院修士課程日本語学専攻修了、博士（言語学）
職歴：筑波大学講師、大阪府立大学助教授・教授、国立国語研究所教授
著書：『日本語を分析するレッスン』（共著、大修館書店、2017年）、『なぜ伝わらない、その日本語』（岩波書店、2005年）、『日本語を話すトレーニング』（共著、ひつじ書房、2004年）など。



勝田 夏子

NHKコンテンツ開発グループ チーフ・プロデューサー。1992年NHK入局。96年以降、東京・大阪局およびNHKエンタープライズでドラマ番組を制作。主な演出作品に大河ドラマ「北条時宗」、連続テレビ小説「風のハルカ」「ゲゲゲの女房」、ドラマ10「下流の宴」、プロデュース作品に連続テレビ小説「半分、青い。」、8Kドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」、土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」「空白を満たさなさい」他。



木ノ下 裕一

1985年和歌山市生まれ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）や神田伯山の講談の補綴など、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。2020年からNHKラジオ第2『おしゃべりな古典教室』のパーソナリティを務める。



吉田 玉助

1980年、吉田玉幸に入門し吉田幸助を名乗る。朝日座で初舞台。2018年、吉田幸助から、祖父である吉田玉助（三代目）の名前を襲名し、五代目吉田玉助となる。父であり師匠でもある吉田玉幸に四代目吉田玉助を追贈。大きな体を活かし、立役として主役級の人形を遣う。また、本公演以外でも、ポーカロイドや他ジャンルとのコラボを積極的に行う。ラジオやテレビにも出演し、文楽を広める活動をしている。

～朗読を深める～ 朗読指導者養成講座

2023年
4月開講

募集要項

<p>主 旨</p>	<p>この講座は朗読者に求められる幅広い人間性と朗読指導者としての高いレベルの知識及び指導法を体得することを目指して行うものであり、講座終了後、「修了証」を授与します。</p> <p>朗読の喜びや力を如何に伝えていくか。また、聞く人の心に届く朗読とはどのようなものか。その力を朗読者のものとするためには、朗読者自身の豊かな人間性と広い意味での朗読のノウハウを身に着けることが必要とされます。それらを総合的に学び、朗読を深めるのがこの講座です。</p> <p>朗読は人と人とのコミュニケーション力を付ける大切なスキルの一つです。朗読の基礎、表現法を学ぶことによって、話し方、声の出し方、発音、声の調子などあなた自身の表現も深まります。</p> <p>朗読はもとより、学校での生徒に良く伝わる授業、また、ビジネスの場での説得力あるプレゼンテーションなどの力を上げる事が出来ます。また、言葉の専門である各講師の指導を体験することによって、指導法を学ぶこともできます。</p> <p>NPO日本朗読文化協会はこの講座で培われた「朗読者」を通じて、広く社会貢献できることを目標としています。</p>
<p>講座内容</p>	<p>講座は1年間（月1回）を通して行われます。</p> <p>I：「朗読とは」加賀美幸子／4月 朗読とは何かを問うもので、朗読の概念、哲学を学びます。</p> <p>II：「基礎力」①山崎広子／5月、6月 ②野田尚史／7月、8月 ①音声学を基にし、朗読の元になる発声、朗読者自身が自分の声を知り、それを使いこなせるようにします。 ②言葉の基礎を基に、聞き手に伝えるには何が必要か、伝わる日本語を学びます。</p> <p>III：「表現力」①勝田夏子 ②木ノ下裕一 ③吉田玉助 9月～2024年2月（各2か月） 魅力的な表現とはどのようなものか。また、そのためにはどの様にすれば良いか。演出、司会、ナレーション、及び舞台表現の立場からの指導を受けます。</p> <p>まとめ：「朗読論」と発表 加賀美幸子／2024年3月 これまで学んできたことの総括と受講者の朗読発表</p>

講座日程	2023年4月～2024年3月 原則月1回第4土曜日14時～16時 講義時間120分 ※講師の仕事の都合により、日程は変更する場合があります
募集対象	①朗読活動の指導者を目指す方 ②朗読活動の更なる進歩を目指す方 ③コミュニケーション技術の向上のために朗読を学びたい方 全ての講義に出席可能な方
受講料	協会員：80,000円 一般：100,000円 なお、支払い後の受講料返金には応じかねますのでご了承ください。 ※協会員としての申し込みは、在籍3か月以上の方に限ります ※分割支払いは、2回（申し込み時、及び9月）まで可とします
定員	20名（書類選考あり）
聴講生	各講座最多10名（ただし協会員限定、申し込み順） ※聴講の場合、講義に対する質問や相談はお受けできません。 ※参加費：1講座6,000円（ただし2講座まで）
講座会場	東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー3階
募集日時	2023年2月1日(水)～3月6日(月) 必着 3月末日までに受講の可否をお知らせします。
「修了証」の授与について	1) 講座終了後、全講義出席の受講者には「修了証」を授与します。 2) 止むを得ず欠席した講座は次年度にのみ再受講することができます。 但し、受講料：1講座につき6,000円
申込方法	①ホームページから申し込みをされる場合 入力フォームからお申し込み下さい。 ②FAX または郵送で申し込みをされる場合 7ページの募集要項の申込書に記載の上、下記住所に2023年3月6日（必着）までに郵送、またはFAXして下さい。 FAXでのお申し込み：03-6435-8356 郵送でのお申し込み：〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 NPO日本朗読文化協会 「朗読指導者養成講座」係宛

お問合せ

 NPO日本朗読文化協会

〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2

TEL：03-6435-8355 FAX：03-6435-8356

E-mail:npo-rodoku@rodoku.org <http://www.rodoku.org/>



講座日程

講座日／講師名 講義名／概要

1

4月22日
加賀美幸子**朗読とは**

その道に入っても、とどまったままの人、行く道を探し続ける人、決まりの無い世界の中で、何かをしっかりと掴む人、それが何か…ハウトゥーではなく、見えない聞こえないけれど、生き方・在り方が問われる朗読です。

2

A 5月27日
山崎 広子**声を知る～声と脳と身体不思議～**

まず声帯、共鳴、呼吸、脳の発声回路などの基礎知識をお話します。

〈声帯原音から声へ／声は究極の個人情報／聴覚と声／呼吸法の検証／声は脳から身体を変える／脳が声を作り、声が脳を作る〉など。

B 6月24日
山崎 広子**オーセンティック・ヴォイスと声の心理学**

前半は声と心のお話。後半は質疑応答で理解を深めます。

〈自分の声を嫌う人が多い理由／声は心をどう動かすか／本物の声＝オーセンティック・ヴォイスとは／人はその声のように心身が構築される〉など。

3

A 7月22日
野田 尚史**日本語のあいまい文**

「大きなおもちゃを入れてある箱」は「大きなおもちゃ」という意味か「大きな箱」という意味かがあいまいです。このような「あいまい文」はどんな構造を持っていて、どのようなときに生じるのかを考えます。

B 8月26日
野田 尚史**言語による配慮表現の違い**

相手に対してお礼を言ったり、丁寧に述べたり、親しさを表したりする「配慮表現」は、言語によってどんなときにどのように使うのかが違います。日本語と他の言語の配慮表現がどのように違うのかを考えます。

4

A 9月23日
勝田夏子**ドラマ制作の現場から①：「物語」を作ること**

架空の「物語」を紡いで何かを表現するという行為の一つであるドラマ制作。その現場から、なぜ、どうやってフィクションを作るのか、その実態と、「物語」が持つ力について考える。

B 10月28日
勝田夏子**ドラマ制作の現場から②：誰に何を伝えるか**

多様性の尊重やボーダーレス化といった果実を得る一方、様々な分断や価値観の衝突に揺れる現代社会。表現行為における「作り手」「受け手」という関係の変化に伴う新たな課題について考える。

5

A 11月12日
(第二日曜日)
木ノ下 裕一

古典と友達になる。

古典を自らの糧にしていくためにはどのように「読んで、いけばいいのでしょうか。和歌や物語、随筆など様々な古典文学を取り上げつつ、ご一緒に味わってみたいと思います。

B 12月23日
木ノ下 裕一

古典を旅してみる。

現代人が失くしてしまった感覚や価値観を古典が教えてくれることがあります。能や狂言、歌舞伎など古典芸能を取り上げつつ、古人が芸能に込めた「心」を旅してみたいと思います。

6

A 2024年
1月27日
吉田 玉助

修業時代

修業時代の苦労話や失敗談。足遣い左遣い時代の師匠とのエピソードや先輩方との心に残る思い出。

B 2月24日
吉田 玉助

大役を遣うようになって思ったこと、得たこと

入門から42年の時を経て、現在大役を遣うようになって思うこと。これからの文楽の未来図。

7

3月23日
加賀美幸子

まとめ

それぞれの「朗読論」と発表

※注 コロナ感染状況により、講座日程が変更されることがあります。

Rodoku

【受講申込書】

フリガナ 氏名		年齢	歳
職業	役職などできれば具体的に		
連絡先	住所		
	電話	携帯	
	メールアドレス		

【朗読活動経験】

1.あり(具体的に)

2.なし

【本講座への思い】

【受講後の活動予定】



NPO日本朗読文化協会

Since 2001